

令和4年度 学校教育自己診断 結果について（報告）

【実施時期】	令和4年11月21日～12月2日
【実施方法】	アンケート用紙を配付し、回収して集計する
【提出状況】	保護者 82.81%
	生徒 76.67%（中学部C班高等部C,D班のみ実施）
	教員 100%

【自己診断の結果・分析】（いずれも肯定的意見の%を挙げている。）

（保護者）

全体の平均で80%以上の肯定的回答を得た。

一方で肯定的評価の低かった

「学校のホームページをよく見る。」43.2%

「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」67.8%

については、いずれも原因の分析を行い、その改善に取り組む必要があることが示された。特にホームページについては、全学部で情報提供や有効活用の取組みを行うことが必要であると考えられる。

（生徒）

全体の平均で79.0%とほぼ80%の肯定的評価を得ている。「先生は、わたしたちの話をよく聞いてくれる」が88.2%、「授業はわかりやすく、楽しい。」「先生は自分がかんばったことをみとめてくれる」がいずれも86.8%と高い肯定的回答を得ている。また「ICTの活用」85.3%は、端末や施設整備の効果もあり、授業での活用が充実してきたことがうかがえる。

（教員）

「すべての教育活動において、人権尊重の姿勢に基づいた指導が行われている」88.2%

「児童生徒の日常的な様々な問題の指導場面において、家庭や関係諸機関との連携ができていく」92.4%と年度当初に設定した目標に達することができた。

また昨年度より様式を変更した「個別の教育支援計画と個別の指導計画」の作成は92.4%、活用は82%の肯定的評価を得ているが、改善や活用について課題を感じる教職員もいることから引き続き検討を行う必要がある。

「業務分担」「施設・設備」「備品教具の充実と管理」に関する要望が多いので次年度以降引き続き改善していかなければならない